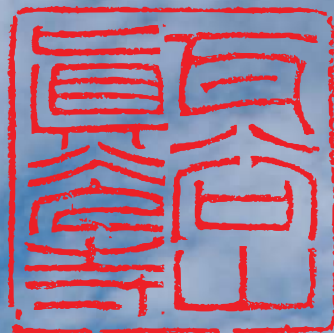


瓦谷山



瓦谷山だより



発行日 2009年12月吉日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

〇お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
〇上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
〇お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.12

ご挨拶

愛されること、ほめられること、役に立つこと、必要とされること。

障害者の雇用で話題の日本理化学工業会長、大山泰弘さんが法事の席で禅僧から聞いた、人間の究極の幸せです。

本年四月「自殺防止ネットワーク風」という小さな団体が発足致しました。年間三万五千人を超える自殺者を少しでも止めることはできないかと、宗派を超えて全国から有志の僧侶が集まりました。その際に福井県の名勝東尋坊で自殺しようとする人に声をかける活動をしている茂幸雄氏のお話を聞きました。三国警察副署長を務めておられた時に、警察も役所も親身になって自殺を止めようとしていないことに憤り、退官後一人で見回りと声掛けの活動を始められたといわれます。声を掛け、話を聞き、実際にその問題を解決するためにその人の職場や学校、家庭なども訪れ、一緒に話をして問題の解決にも尽力されているそうです。そうした中で、当事者と周りの人々がコミュニケーションできていないことが多いといわれます。コミュニケーションの不足による心の疲弊が、人を自殺へと追いやっていくようにも思いました。

自殺とも大いに関連しているといわれる「うつ病」などの精神疾患の増加も社会問題となっています。この問題は根深くまた広範なものですが、先日テレビのニュースで、「うつ病」を発症した若者の多くが、幼少期に家庭で夕食の団欒の時間を持っていない環境で育っているという医師の話放映していました。現代人は多忙な社会状況と、他からの干渉を嫌う世相によって孤立主義に陥りがちとなり、人と人とのコミュニケーションが不足し、心の栄養不足をおこしているような気がします。

前掲の人間の究極の幸せは他人との触れ合いの中で生まれるものであり、またそれをお互いに語り合って確認することで、さらに大きな心の栄養となっていくのではないのでしょうか。語り合い触れ合う大切さは忘れたいくないものです。真光寺は一応「自殺防止ネットワーク風」の二十四時間相談所となっています。忙しい中でどの位できるのか不安ですが、どんなご相

談でもお受け致しますので、住職宛にお気軽にお電話下さい。

ご本尊様を修理するためのご寄進をたくさん頂戴致しましたこと篤く御礼を申し上げます。お正月にはご本尊様が、以降随時仏様が帰ってくる予定です。ご寄進の詳細と、修理なった仏様につきましては改めて本誌上に掲載致します。

年末から年始にかけて行事が続きます、皆様のご参詣を心よりお待ちしております。

合掌

住職 岡本和幸



里山にて おもむろにアケビを採ってきた住職

行事報告

「檀信徒」

◆山門大施食会法要

平成二十一年八月九日（日） 山門大施食会法要を行いました。



天性院住職 番沢老師による
お説教

婦人会による御詠歌奉詠



法要の様子



◆秋季彼岸会法要

平成二十一年九月二十日（日） 秋季彼岸会法要を行いました。



書院での法要の様子



三笑亭可龍さん

法要後はお馴染みの落語
今回のお題目は
『ずっこけ』でした

「縁の会会員」

◆七日法要

午前は当月にご逝去された会員の方々の月供養と、新しい会員の授戒式を行います。午後は各月の行事を行っています。



- 八月 盂蘭盆会法要（上）
- 九月 彼岸会についてのお説教（中右）
- 十月 収穫祭（中左・下）

◆寺のある暮らし・夏

里山散策、農作業、掃除・・等、色々な作務の中から好きなものを選び体を動かしたり坐禅等を行いながら、のんびりとした時間を過ごして頂きました。



朝のお勤め



大根の種蒔き



里山散策



夕暮れの座禅

真光寺はどんなお寺？

東京都四谷 東長寺 僧侶 渡邊英心

あなたの菩提寺はどんなお寺ですか？と訪ねられたら、あなたはどんな言葉で真光寺を表現するでしょうか。樹木葬というのをやっていること、里山の再生に携わっていること、お米を作っていることなど、色々な側面の印象を抱くことと思います。

私は岡本住職のもう一つの兼務寺である四谷の東長寺で務めている僧侶です。人手の足りない時には真光寺でのお手伝いをさせてもらっております。秋田の農村の寺で生まれ育ってきた私にとって真光寺は、新しいことをやっているように見えるようで、実はとてもお寺としての本質に迫った活動を目指していると感じるので、ここでは、樹木葬や里山再生活動を通して、地域コミュニティの核となることを目指す真光寺の印象を私見ながら述べたいと思います。

真光寺ではご存じの通り、先祖代々の墓に変わる新しい墓、樹木葬での埋葬を行っております。一般的なお墓というのは、明治民法で定められたいわゆる「家制度」と、江戸時代の檀家制度の整備と共に確立されました。それが現在に至るまでの、いわゆる「先祖代々のお墓」となったわけです。しかし高度経済成長期以降の人口の変動で過疎過密が生まれると、お墓を守っていくことが困難になる家が増えてきました。

男女平等や新民法による家制度否定といった意識の定着と同時に、核家族化の進行や、女性の社会進出による自立志向などといった諸要因が、

従来の墓制度の問題点を表面化させてしまう結果となってしまったのです。

高齢化社会で墓地需要が高まるなかで、都会に住んでいるのに、離れた地方のお墓に入りたくない、継承を前提としないお墓に入りたいなどといった声が高まるにつれ、お墓に対する考え方も多様になってきました。「自然に還りたい」とか、「形式にこだわらたくない」という志向が高まる中で、それに応える新たな墓地の形態として誕生したのが樹木葬です。もともと江戸時代以前には庶民の間で墓を建てる習慣は無く、造ったとしても石を墓跡として置くぐらいで、古代においては、遺骨を山や川に流すのが一般的であったそうで、古くから日本人は自然に還る葬法で死者を送ってきたわけです。もっと言えば、仏教の生まれたインドでは、古来より、ガンジス川に遺灰を流せば、もとのところへ還ることが出来るという思想が今も残っていますし、お墓も建てません。チベットにおいては鳥葬といって、遺体を細かく切り刻んで鳥についばませて天に昇らせるといふ葬法もあります。樹木葬というのも、もとのところへ還るという意味では、仏教における人間の死生観の根本的な考え方に適っているのかもしれない。

先祖代々の墓を守っていくことはとても大切なことですし、ご先祖のおかげさまで今の自分が生かされていることを忘れてはいけません。それは我々が後世に伝えていかなければならないことです。ですが、現行の墓制度の維持が難しくなってくると同時に、時代と共に日本人の先祖祭祀観は変化しています。顔のわからない遠くの先祖を含めた祈りであったのが、顔の見える「近親追憶的」な先祖（親、祖父母など）に絞られた祈りへと移行しつつあるという論考

もあります。とはいえ、墓の形態が変わっても人が亡き人を思う気持ちはかわることは無いと思います。環境にもやさしい樹木葬は、時代のニーズに応えた新しい形式の墓として各地でこれからも広がっていくことが予想されます。

そして真光寺の樹木葬の注目すべき点は、それが里山の再生に直結していることです。真光寺の樹木葬は、荒地地だったところを整備し植樹をして、長い時間をかけて森林を育て、里山を保全するために一役買っています。自然に還りたい人たちの墓地が、そのまま自然保護に役立っているというのはまさに好い事づくしです。

真光寺では、「里山再生活動」というのも行っており、私も何度かお手伝いをさせて頂いております。月一回のイベントではご近所や都内近郊からの参加者、スタッフと共に田んぼの管理や生物の観察を行う中で、季節ごとの風景や食べ物を楽しみながら、自然と人間の共存を考えます。普段何気なく過ごす日々や、口にする食べ物、様々な要因、縁によって成り立っていることを感じ、感謝の気持ちを持つことが出来る活動です。そうしてできたお米は参加者に配られたり、販売されたりします。今年のお米も上出来だったようです。最近では野菜の販売も始めたりして、こちらも好評のようで、お寺に活気が溢れているようです。真光寺の活動に込める想いは、ますます檀信徒の気持ちを引きつけることでしょう。

お寺というのは、子供達の遊び場や学び場であったり、住民の集会所であったりと、もともと地域を中心におかれる公民館のようなところでした。昨今では、「葬式仏教」と批判的に言われることが多く、地方でも都会でも、誰かが

亡くなつてからでしかお寺と接する機会がなくなりつつあるというのが、多くの寺院の現状です。しかしお経をよむこと、供養をすることだけがお寺の役割ではありません。生きていくこと、生かされていることの有り難さを教え、それをみんなで共有し、お互いに心を育て合う場を提供することが、お寺の本来の在り方だと思います。樹木葬、里山再生活動を通して、地域の自然保全のために尽くし、同時にたくさんの人々が交流できる場を提供し、地域の核となるお寺をみんなで創りあげていこうとする真光寺の姿勢は、いずれ秋田の寺を任される私にとって見習わなければならないところです。

皆さまの心の拠り所としての真光寺を、より身近に感じて頂き、温かくて素敵なお寺をご一緒に創って頂けたらと思います。

合掌



渡邊師

日常の中の仏教

とうき
投機

投機の語は現在では短期的な将来の予測に基づいて物品や権利の価格変動から利益を得ようとする取引として用いられます。が、この投機の語はもともと仏道修行によって仏教の根本義を体得することをいいます。

機とは人の心のはたらきや人がもともと持っている素質のことで、「機根」などともいわれます。この機には能力の差があり、教えを聞いて必ず悟りを得る者、そうでない者、どちらとも決まらない者等があるといわれています。そして、衆生の性格・氣質は衆生の数だけあり、釈尊は各人に合わせて教えを説きました。このことを「対機說法」「臨機応変」といいます。また、「嘘も方便」といいますが、仏教において方便

とは虚言ではなく、「衆生を教え導く巧みな手段」あるいは「真実の次元に導くための便宜上の教え」で、あらゆる人を悟りへと導く優れた教化の方法です。「方便」の語も「対機說法」の類縁にあたります。

禅宗ではこの投機を弟子の機と師匠の機が相投じて自然に一致することと解釈します。つまり、師弟互いの心のはたらきのやりとり、相手の心と共鳴し、重なり合うことで心が開明し悟る場合を「機機統合」といい、それが「投機」という語になりました。また「展事投機」「互換投機」などといいますが、この場合は禅問答でお互いに全身全霊でその境地をぶつけ合うことを表します。



9月 稲刈り



谷津田のお米作り

今年で6年目になるお米作り、35俵のお米が収穫できました。そしてここ川原井まで多くの方に足を運んでいただき、延べ300人近い方々にお米作りに参加していただきました。なかでもご家族で参加される方が増え、年齢層もより一層幅広く、より賑やかな上総自然学校のお米作りとなりました。参加者の方々の姿を見ていると、自然と触れ合うこと、無心に体を動かすこと、ひとつの作業を皆でやり遂げることに特に喜びを感じているように思います。ここで体験し感じたことが芽生えとなって、それぞれの生活の中に新しい視点や新鮮な何かが育っていってくれば嬉しい限りです。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ 田んぼに裸足で入るのが自然を感じられてとても楽しかった。
- ・ 水不足や台風情報を気にするようになった。
- ・ 自分が普段食べているものがどのようにつくられているかもっと勉強したい。
- ・ 体は鍛えないといけないと気づきました。
- ・ 農作業の大変さを実感し、食べ残さないようにしようと思った。
- ・ 米のできるまでが体験でき、米に対して愛着がわきました。
- ・ 都会で味わえない活動ができ、子供を育てる環境下で絶対に必要なことだと思いました。
- ・ 農業を身近に感じるようになった



1. 「お米ってこんな風になってるんだ～」と稲穂をつぶさに観察
2. ザクッ ザクッ っと鎌で稲を刈り取ります
3. 草取りも参加されたご家族。苦労して草を取った甲斐があったでしょうか・・・？
4. 5 竹を組んで稲穂を干します。
6. 田んぼではカエルを追いかけて子供たちが走り回っていました
7. 真光寺の畑でサトイモの収穫
8. お檀家さんが作った地元野菜の販売コーナー
9. なんと土を掘って新しい田んぼを作りました！
10. この日炊いたお米は11升(110合)！なにせ100人近い人数でしたので・・・
11. 炊きたての新米でおにぎりづくり。田んぼの上でいただきました。
12. まだ渋さの残る柿を食べてしまい・・・「！！！」（笑）
13. 警戒しながら初めて見るアケビをパクッ。
14. レングの種まき。来年のお米の肥料になります
15. 参加回数×1kgのお米を進呈。お米の重みは格別でしょうか・・・？
16. 今年1年、お疲れ様でした！！



販売分のお米はお陰さまで完売いたしました。お買い上げくださった皆さま、ありがとうございました！



9



8



7



13



12



11



10



15

16



15



14

10月 収穫祭

◇ 森林整備

『風景を開きませんか?』

・平成二十二年一月十六日(土) 山道作り他

・平成二十二年二月二十日(土) 笹刈り・椎茸の菌打

◇ 谷津田のお米作り

『開墾』 笹刈り他

・平成二十二年三月十三日(土)

『畦塗』 畦に田の泥を塗り、水漏れを防ぎます

・平成二十二年四月十七日(土)

・平成二十二年四月十八日(日)

※各日帰り

※ご参加頂くには事前のお申し込みが必要です。詳しくはhpをご覧ください。お電話でお問い合わせ下さい。



『風景を開きませんか?』
山道作り



『畦塗』

上総自然学校イベントスケジュール

修証義に学ぶ

真光寺住職 岡本和幸

犬の経験

前回は真光寺の家族である猫たちについて書きましたので、今回は、残念ながら昨年亡くなったフーチンをご紹介します。フーチンの正式名称は王府井と書いて、ワンフーチンと読みます。中国の北京の通りの名前からとりました。この犬は柴犬で、十六年前、ふらっと立ち寄った、小さなペットショップの隅にいました。聞くと雌ということですが、ずっと小さな檻の中にいるということです。身体は小さいままだけれども、生後八か月で、このまま売れないと処分になってしまうとのこと。そんなことを言われてふと見ると、目が合ってしまった、その場で家内に相談することもなく、衝動買いをしてしまいました。

長く檻の中にいて、散歩したこともなく、またかわいがられた事がなかったため、ひどく臆病な上に、なかなか馴れなくてとても困りました。犬にとって恭順のあかしである腹を見せることも決してありませんでした。しかしながら性格は素直でやさしくて、人間好きな犬です。フーチンは人もまばらな田舎のお寺では頼もしい番犬でした。他人が近づくとともかく吠えまくりですが、人に吠えなかったりしません。縁の下に逃げ込んでひたすら吠え続けます。ただ、飼い主に対しても顔が見えるまでは同じよ

うに吠えまるのには困りました。この臆病フーチンが決して吠えない人が二人いました。一人は新聞配達の人です。毎朝ほぼ同じ時間にくるので、危険がないと理解したようです。ただし夜集金に来るときは吠えます。もう一人は近所のおばあさんです。畑への行き帰りに毎日のようにフーチンの側を通ります。またしよっちゅうおかずや野菜を持ってくるので、これも覚えてようです。犬でも毎日毎日の積み重ねで、この人には吠える必要がないことを理解します。

猫にしても犬にしても、それぞれの個性があり特徴がありますし、小さい時の経験もそのまま性格や習性に反映しているようです。小さい時からの経験によって、考え方や、性格が決まってしまうのは人間も同様です。しかし今はそういう要素が遺伝子によっていることは広く知られていますが、見たことも、聞いたこともないことを、いきなりできる人間はいません。どんな素材でも、経験という味付けがなければおいしい料理にはならないのだろーと思います。

縁起の力に生かされて

今の世に因果を知らず業報を知らぬ、三世を知らず善悪を弁まざる邪見の党侶には群すべからず、大凡因果の道理歴然として私なし、造悪の者は墮ち修善の者は陞る、毫釐もたがわざるなり

(修証義第四節)

仏教の宇宙観を短い言葉でまとめたのがこの節です。この節を読むにあたっては、まず仏教

の根本的な考え方を理解することが必要です。

仏教の教えの根幹は「縁起」という考え方で、縁とは接着剤のようなもので、結びつきという意味です。仏教では宇宙のあらゆるものは結びつきでできているといえます。たとえば自分の命を振り返れば、父母の命が結びつき生まれ、自分の命と食べ物、命が結びつき、身体が成長していきます。年をとるにしたがって衰えるのは、結びつきの力が弱くなるからです。縁がつきれば身体は滅び、もとのバラバラな物質に戻っていきます。元来バラバラなことを「空」といい、時の流れとともに縁によって結び合い、結果として現在の段階にある。これを「縁起」といいます。結びつきの力、つまり縁の力ですべてのものは、できあがっているということです。

ここに「善悪」という言葉がでてきますが、私たちの日常生活においては、昨日良かったことが今日は悪くなるということがありますが、経文中の善悪はそういう人間にとって都合のいい善悪ではありません。たとえば、神をたてる宗教では、神の心になくえば善、かなわなければ悪ということになるように、仏教ではこの縁起の理法になんてなっていることが善です。善とは決して短絡的に自分の欲望が満たされることではなく、人でも生き物でも環境でも、自分を取りまく縁がよりよく働くことを善ということです。

因果の道理

この「縁起」の考えを具体的に表したのが「因果」の道理です。因は原因、果は結果の意味で、因果は正確には因縁果といえます。ものごとに

は必ず原因があつて、それにさまざまな縁が加わって結果が出ているという意味で、わかりやすくいうと、種子が因で、太陽や水、肥料が縁で、花や、果実が果ということ。つまり原因となる物質があつて、そこに様々な条件が結びつき、結果が生まれるという、縁起のありさまを因果というのです。

これを時間に置き換えると、過去・現在・未来の三世になります。因果の道理を時間軸にあてはめて考えれば、すべての過去は現在に影響を与え、現在は未来に影響を及ぼすということになります。過去は現在あるいは未来に影響を与え、決して変えることはできません。現在を過去を土台に未来に向かって自在に良い縁を作れる時であり、未来は過去と現在の影響を受けて必然的にやつてくるものです。

ただここで注意しなければならぬことは、縁という要素は良くも悪くも複雑にはたらくわけですから、現在の結果の原因を特定することは不可能です。たとえば車の事故を起こしてしまつたとします。さまざまな原因があります。免許を取つたからであり、車に乗つたからであり、用事があつたから事故を起こしたわけ。また縁を考えると、そこに人がいたからであり、雨で視界が悪かつたからであり、ボケつていたからでありと、これもいろいろ考えられます。事故の原因を一つに特定することはできないのです。それが本来の因果ですから、たとえばご先祖様の供養を怠つていたから、事故にあつたなどというのはまったく因果の道理にはあてはまりません。人は悪いことが起こると、何か過去に原因を求めがちです。そうすることに

そういう人間の弱さがさまざまな悪しき宗教につけ入る隙を与えてしまうのです。因果の道理はあくまでも物事の成り立ちを解き明かす真理であり、人間が頭で考える善悪や、御都合の立ち入るようなものではないのです。

業、行いの積み重ね

ちまたの宗教では、業とか、宿業、カルマなどという何やら恐ろしい言葉を使つて事故を説明しようとしています。交通事故にあつたのは悪いカルマのせいだから、そのカルマを除くためにお布施をしろというわけです。しかし「業」の原語である「カルマ」は「行為」という意味で、自分の行いが積み重なつて今の私を作り上げていくということです。しかも、とても論理的に考えなのです。しかしそれが恐ろしいことのよう

に思えるのは、あまりにも間違つた業論が広まつているからです。

一、善因楽果、悪因苦果

一般的には「善因善果、悪因悪果」という言葉が言われています。つまり良いことをすると良いことがある。悪いことをすると悪いことがある。これが仏教の教えだと思われています。しかし因果の道理は人のほからいである善悪以前の真理であり、因と果の間には縁が複雑に絡まるのですから、必ずしも善行が善果を生むとはいへません。人に親切にしてあげたのに仇で返されたという話は挙げたらきりがありません。

仏教的には「善因楽果、悪因苦果」なのです。良いと思われることをすると自分の気持ちが楽になり、悪いことをしていると自分の気持ちが苦しくなるという意味です。私が良いと思うことをしていくことで、自分の心と人生が豊かになつていくのだということです。

善とは人のほからいではなく、仏のはからい、縁起の道理、天地自然の道理に合う行いのことをいいます。たとえば殺人は天地自然の道理にあわないのです。すべての人間は生きるために生れ、生きようとする意志を持ち、そして互いに助け合つて生きていくからです。悪いことをしても、特に現象としての罰は当たりません。しかし道徳心の強い人は自分の心が苦しくなり、道徳心のない人でも、関係性で成り立っているこの世で良い人生を送っていくことができなくなつてしまう。こういうことなのです。

二、自業自得

悪いことをしたから悪いことが起こつた。罰が当たつたというのを、一般に「自業自得」といいます。しかしこれも世の中で誤解されている仏教の言葉です。本来は、自分の行いが自分の未来を決めるのだという意味です。

業論は仏教の根幹の教えです。それを理解するために、まず仏教がなんたるかを確認する必要があります。仏教とは人生の苦しみの渦中にあつたお釈迦様が、さとりをひらいて苦しみを人々に伝え、伝えられた人は仏陀のようにさとりを開きたいと修行をする宗教です。ですから、仏教ではいかに自分が仏陀に近づくか、あるい

は仏陀になるかを教え、また良い人生を歩み、苦しみから抜け出すためにどう考え、どう行動したらよいのかということだけが問題にされるのです。

仏教の戒律に、怒りの心を起こさないという戒があります。しかし、社会において怒りの心を起こさないというのは非常に難しいことです。会社で部下を怒らなければならない時もあるでしょう。部下の未来を考えれば、そういうことも必要かもしれません。しかしそのときに口汚く怒れば、それは自分の行いですから自分にとって良い縁にならないのではないのでしょうか。怒りは誤解を生みます。また自分の心も傷つきます。そうであれば怒るのではなく論すべきかもしれません。自業自得とはこのように自分が行ったことはすべて自分に刻まれていくという意味です。

三、自業と他業

私たちは生まれる前から様々な命の継承を経て生まれ、先人の行いの積み重ねの結果できあがった社会に生きています。この世に生を受けて以来の自分の行為である自業と共に、自分とは直接関わりないように見える社会の行為の積み重ねである他業があり、他業は自分を取り巻く縁となるわけです。

二つの業は複雑に重なり合っています。他業はあくまでも自分を取り巻く縁で、自分の行いとは別のものなのです。ところが人はこれを分けて考えることができません。自分を取り巻く環境に圧迫され、悩みます。いつそ死んでしまえと自殺したくなることもあります。そんな

時、ふと窓の外を見ると梅の花が咲いている。毎年変わらず咲く美しい花を見たとき、悩んでいたことがばかばかしく感じられた。という話を聞くことがあります。これは過去は不変で、未来が必然であることに気づいたともいえ、また悩みは自分を取り巻く縁であるという本来の姿に気づいたともいえます。つまり悩みは自分が生きているということと別の次元にあるのだと気づいたのです。

難しい言葉の多い第四節ですが、これまで説明したことを踏まえて意識してみます。

過去が現在に影響していることを知らない反省心のない人や、現在が未来につながっていることに気づかない愚かな行いをしている人、自分の行いが自分の未来を決めていることを知らないで、人に責任ばかり押しつけている人、縁起の道理を知らない善悪の区別ができない人、などに影響されないで、今という時に、自分の未来のために縁を大切にしたい行いをしていきなさい。そうすれば心が安定して、安らぎを得ることができると読むことができます。

『修証義』では命の大切さを説いた後に、第四節以降では世の中の仕組みや、自分の命の仕組みを解き明かし、ゆめゆめ愚かな行いをしてはいけなさと説いています。

(つづく)

お知らせ

この度、真光寺事務長を務めていた山崎が一身上の都合により十一月をもって退職することになりました。突然ではございますが、ここに挨拶をもってお知らせさせていただきます。

「挨拶

二〇〇二年、アジア初開催の日韓ワールドサッカーに日本中が盛り上がっていた頃、独立したばかりの私は仕事も無く日々テレビ観戦の毎日を送っていました。そうして熱かった夏が終わり、次第に季節が秋へと移り変わる頃、大学の先輩でもあり、同じ会社の先輩でもあったY氏より一本の仕事の頂きました。仕事の打合せを兼ねて大阪まで赴くと、同じ事務所空間をシェアしている大先輩から、「東京で絵の描ける奴を捜している奴が居る」と、その場で電話をしてくださり、東京に戻ったら挨拶に伺うと約束を交わしました。

その後続く真光寺との出会いは、こんな遠方の縁から始まりました。それからは開創四五〇年記念事業としての、新伽藍・樹木葬に至る境内地全体の開発の一端に携わることが出来、また平成十六年十月には、現在の真光寺での授戒式の元となる「誓願会」にて、方丈様より「弘嚴智法」の戒名を授かるなど、整備工事だけに止まらず暖かい励ましを頂きながら今日まで頑張ってきました。私事です。が、訳あって一旦真光寺との関わり方に距離を持つことになりましたが、こんなにも長くそしてプロジェクトの中心付近にいられたことはとても貴重な経験であり、かけがえのない物となっています。今後、どの様に関わっていくのかは未だ判りませんが、真光寺に関わる全ての人のご多幸をお祈りいたします。またお会いすることを願って。

山崎 康弘



袖ヶ浦散歩

そうさくダイニング

橡

marronnier

今回の袖ヶ浦散歩はJR内房線・姉ヶ崎駅から徒歩5分のところにあるレストラン「橡」のご紹介です。何せこの外観ですの（写真上）、気にならなはずが、ありません。どんなお店なのだろう・とわくわくしながら取材してまいりました。予想を裏切らない、というよりも予想以上の素敵な装で、ゆったりと落ち着いた空間となっており、姉ヶ崎駅にお寄りの際は、こちらの店でランチなどいかがでしょうか？美味しくて楽しい時間をご過ごすこと間違いなしです。



本日のおすすめパスタ/牛カルビとセリの塩パスタ
ジューシーかつふんわりなお肉がたまりません！
塩味でさっぱりといただきました。



黒ゴマのブラマンジェ
食後にちょうど良い濃さと大きさの上品なデザート

ランチメニュー

◆1,380円コース

サラダ パン パスタorパエリア ドリンク デザート
(パスタはモッツアレラ・シーフード・生ハムとほうれん草など9種類から選べます)

◆1,680円コース

サラダ パン 本日のおすすめパスタorパエリア フリードリンク デザート

単品メニュー

◆潮風のサラダ ローストビーフとアスパラのサラダ他
(平均¥1,000)

◆パリパリ焼き(チーズ、アボガド、海老など。¥980)

◆きのこのピッツァ 海老だけのピッツァ他
(大¥1,680 小¥980)

◆豚ヒレのトマトパスタ 蛸ガーリックパスタ 潮風のパスタ他
(平均¥1,200)

◆黒ゴマのブラマンジェ 黒みつときなこの和のプリン
クレーン・ド・ブリュレ バニラアイス(平均¥450)

木を基調とした
落ち着いた店内



店内のど真ん中には、大きな橡の一本木が鎮座しています。中はくり抜かれ、神秘的な空間に。



住所 千葉県市原市姉崎684
TEL 0436-61-1557
定休日 日曜日
駐車場 有 20台(専用)

行事予定

〔檀信徒〕

◇修正会大般若祈祷・年頭法要

平成二十二年一月三日(日)午後二時より
年頭のご挨拶と多幸を祈る法要を致します。

◇春季彼岸会法要

平成二十二年三月二十二日(祝・月)午後二時より
恒例の春季彼岸会法要は、右記のように厳修致します。卒塔婆による供養をご希望の場合は、お施主様の名前と、「先祖代々」または「お戒名」でのご供養かを、お電話等でお申し込み下さい。
また法要後は恒例の落語会を予定しております。

◇花祭り法要・檀信徒総会

平成二十二年四月十一日(日)午前十一時より(台所当番・台)
お釈迦様の降誕を祝い、法要後は檀信徒総会を開催致します。
また総会終了後に親睦会を開催致します。川原井地区の檀信徒の皆様は送迎致します。役員が出欠を取りますのでお申し込み下さい。
お電話等にてお申し込み下さい。

◇婦人会ご詠歌練習日

一月一二日(火)・二十六日(火) 二月二十三日(火)
三月 九日(火)・二十三日(火) 四月十三日(火)・二十七日(火)
※二月九日(火)は特別講習会です。
※各回午後七時半より真光寺にて行います。
(どなたでも飛び込みで参加できます)

■安全祈願(檀信徒・縁の会・その他一般)

平成二十二年一月三日(土)午前九時から 十五分毎
「車のお祓い」「交通安全祈願」「家内安全多幸祈願」祈禱布施三千円程度
本年もお正月の車の安全祈願と、家族の安全祈願を受け付けますので、ご希望の方はご家族でご参詣ください。申し込みはあらかじめお電話等でお申し込み下さい。(随時お受けします)

〔縁の会会員〕

◇七日法要 季節の行事予定 打ち出し十一時

「修正会大般若祈祷・年頭法要」 平成二十二年一月七日(木)
【午前】授戒式・月供養 【午後】大般若祈祷
「涅槃会・節分」平成二十二年二月六日(土)
【午前】授戒式・月供養 【午後】坐禅
「彼岸会法要」平成二十二年三月七日(日)
【午前】授戒式・月供養 【午後】写経
「植樹祭」平成二十一年四月四日(日)
【午前】授戒式・月供養 【午後】植樹祭

*昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話等でご予約ください。
午前のみ・午後のみのご参加もできます。

*電車での参加の方には送迎を致します。お電話等でご予約ください。

■送迎時間

□電車の方 JR内房線「袖ヶ浦」駅 10時10分着
□バスの方 【土日祝】品川発9時35分↓袖ヶ浦BT 10時22分着
横浜発9時40分↓袖ヶ浦BT 10時22分着
川崎発9時25分↓袖ヶ浦BT 10時14分着
□お車の方 10時40分頃までにお越しください。

各種お申込み連絡先

TEL 0438-75-7414 (代表)
TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局)
FAX 0438-75-7630
e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)
satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)